



一猷蝕太平樂記

拾九

~ 13
3553
19



門 13
號 3553
卷 19



歐陽文平樂記卷之九

目錄

一 小文山先生石意書

一 小文山先生石意書

一 波度又書石大女合就

一 本村長為就石意書

早稲田大學圖書館
33.11.10
藏書

本行秋物送公の心

一 秋物送公の心

一 秋物送公の心

一 秋物送公の心

秋物

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

秋物送公の心

大正集言卷六十九

舟文ハ廿九日、京々物入、行々仁物、之ノ界
奪々、物入、大前々、清々、入、行々、中々、言々
ば、入、行々、一、致々、入、心々、物入、甲斐々、入、
供、一、行々、入、心々、入、行々、信々、入、行々、
志、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
又、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
レ、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
新、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
る、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、

御、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
芳、入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、
入、行々、入、行々、入、行々、入、行々、入、

元也事法小押子海をよ子余海を付く
 依も我母度(部を)川へて
 部を成るてと命し流小川山動を清原公
 遠海無山田幸延曰我紀人川平を鴻田祇
 無在六人を母に泄る中聖川海妻川
 山内荒公川はよ事なけし者く二百づの流平
 更にて我又部を海妻川へてと見るを
 及りす川へんて付てとく一海を依前平
 女存月を一存平にう猪河をの鼻かた

依我のたもたされしはく母事とて
 ぬるしを記
 けもて部を侍し海妻川にうかんとん
 け時公の尾別をいふもく四月十五日
 入志一由ん達平ぬ流氏評申度堂を介
 清人若東も志し加明ぬえ流し長押九
 是を動も実別部八行倉小十良にぬと動
 神たぬ日日事志しぬを流し多列
 のいし一いつ人改流申れぬと流進

々ぬバ行急發とらけて各々そまの事ことなる名なを
 發はへしとしののかか也也トト上上言言勢勢山山日日ささ曲曲
 ちちてて人人女女切切とと有有ふふとと三三かかよよ之之村村今今中中のの先先所所
 ありぬバ我我勢勢中中ととふふてて大大垣垣勢勢とと四四方方のの面面をを追追
 ちちととててみみかかつつんんのの打打碎碎ささうう言言名名ささるるをを見見也也
 て軍軍此此のの中中ととししののここととはは馬馬かかわわりり廣廣言言
 ととははくく流流れればばささままずずてて急急にに行行くくがが調調ふふゆゆ
 一一回回ははたたりり十十軍軍ととありりととてて垣垣急急とと進進りり
 利利てて行行急急にに大大垣垣勢勢とと同同様様とと進進りりとと進進りり
 々ぬバ急急及及ととかしし防防守守仍仍りりてて圍圍てて後後隊隊のの力力
 大大圍圍れれききとと故故々々ぬぬババ十十軍軍大大三三日日ととままりり
 ありりととるる打打ちちととしし知知りりてて追追ううけけるる流流急急にに發發
 ありりぬぬババ急急とと進進げげととすすりりぬぬゆゆとと
 近近今今得得てて只只六六日日にに迎迎ふふ行行急急にに發發せせぬぬ
 流流急急にに由由りりととししるる大大垣垣のの兵兵ににややりりととぬぬババ
 物物りりれれ好好中中とと絶絶ししととししととぬぬはは進進撤撤入入
 ありりととぬぬババ行行急急にに發發せせぬぬはは同同様様にに發發せせぬぬ
 後後にに亂亂れれぬぬはは何何ぞぞ怒怒りりととたたりりとと又又伏伏せせ

々ぬバ急發とらけて各々の事なる名を
 發へしとのか也ト上言勢山日さ曲
 ちて人女切と有ふと三かよ之村今中の先所
 ありぬバ我勢中とふて大垣勢と四方の面を追
 ちとてみかつんの打碎さう言名さるを見也
 て軍此の中ととしのことは馬かわり廣言
 とはく流ればさまずて急に行くが調ふゆ
 一回はたり十軍とありとて垣急と進り
 利て行急に大垣勢と同様と進り
 々ぬバ急及とかし防守仍りて圍て後隊の力
 大圍れきと故々ぬバ十軍大三日とまり
 ありとる打ちとし知りて追うける流急に發
 ありぬバ急と進げとすりぬゆと
 近今得て只六日に迎ふ行急に發せぬ
 流急に由りとしる大垣の兵にやりとぬバ
 物りれ好中と絶しとしとぬは進撤入
 ありとぬバ行急に發せぬは同様に發せぬ
 後乱れぬは何ぞ怒りとたりと又伏せ

先陣七の如く軍兵を分て搦めんと各道に
 行り度ありたり及て海の子の馬を下足りぬ
 相討後及子外度より向て是より相討ぬ
 あり合戦せし始なる後及はるもの通ふ不決なり下
 大岡を致しあけ切さく事なきは後及下知
 しく我毒しき成して看せんとあり度當代の御
 ともあやハ主ぬハ後及はる實を搦ると又西ハ
 心付たりして實不實をわさるつるも主ぬハ實ハ
 前きられたる如くはるかむむ田は及原権喜至
 在る不實を搦るをたぬとなく實ははるま
 ぬ能く偏し學より電沖たる由田在るなり
 後及はる實を搦る人ハ又喜はるるの強き
 御さす勢ちね海と二人近き實をさるる御
 此の事とあるにりり此の御事不決なり
 近日づれ西より西に御れさけはれ方御事
 人馬は身をとりはれり再び海に押あさる
 猪の鼻をさす御事なる由田在るなり
 あく四方の西なるがきりぬバ漏れ神見えし

五ねと方あつたねくふ近りなりねね心
 らくく地ちつたふそ及きあへく中送るる地ち
 けり流子之重田園かこふくく青いんんと定
 りくくし十ら岸たふらあへく青いんんと定
 と矢つてとえんねん様き入勢の流を
 色くくの内通あへく及きあへく流り
 けり相島南端なる海は深くと下知くえ
 流とくく之を余騎之流あふり中流の馬
 六々相平内通の流を流と流ははる
 名於余平海士名に各く之流別れはる
 と名を地地長者村のく流は及候と云く
 けりくくくくくくくくくくくくくくく
 けるあへくくくくくくくくくくくくく
 名知くくくくくくくくくくくくくく
 地の園れ入りくくくくくくくくくく
 けりくくくくくくくくくくくくくく
 相又え親り有井野原つくくくくくく
 山海流のあふり内通の流ある但馬守

大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々

大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々
大島を奪はせたりと云々 大島を奪はせたりと云々

西川の津み宿のほくはとぬく相又得及
 金をさしあむらみゆつもの後とほく大町幸自
 可目角下りまそ一ゆれ舟廿度へあか宿時
 切くぬく帰るしす時舟宿のほくあておと切
 籠せりあけほく籠一高り高つてぬく別れ
 てくるしゆして後陣へほく舟宿のほく由余
 日加京河右をほくま馬山にぬくゆゆゆ
 けまゆゆゆお勢のほく下坂山口にぬくゆ
 へるたぐりくる相又とままのほくあか
 川宿して半社宿りし日吉陣共井ぬく
 馬本屋をぬくまぬぬゆゆゆゆゆゆ
 金をさしあむらみゆつもの後とほく大町幸自
 兵助ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 へゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 聖根たぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 徳園ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 先物ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 甲日ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

馬を返して近江を退けしむ其を其二層
 兵に容申せしけり打たれ馬より退りて
 身もつていへばあ村にたれ掃討せし退りし
 大音揚が神に由天留れ後依る本堂之
 池にたれぬの屋下一掃のあをたはる其
 おのまへに居るあはれ海軍あのみ磯にたれ相
 るく成りけりやん其常と掃討せしむる
 平河があ牛居とてつてあ村にたれし池
 ありと回る海にたれあはれ馬の掃討せしむる

従ふ方四人討つれ掃討せしむるあはれ
 りる如く并陣が退りてあはれ馬の掃討せしむる
 りたれるあはれしむるあはれ馬の掃討せしむる
 侍るあはれしむるあはれ馬の掃討せしむる
 四つがば東軍たははれしむるあはれ馬の掃討せしむる
 退りてたれぬの屋下一掃のあをたはる其
 用川へ退りてたれぬの屋下一掃のあをたはる其
 其掃討せしむるあはれ馬の掃討せしむる
 一掃のあをたはる其掃討せしむるあはれ馬の掃討せしむる

海聖なる者其心も五登つてくまのけふも田
 かゝるに追はる神よるをかくしこ子
 了南進んで金龍をうつし追はる神
 中をたれ井戸をたてし所ののまをたれ
 なるに力ぶるいし方お中へ川をたれ
 四月廿七日をたれし城をたれしをたれ
 ありろくをたれしをたれしをたれし
 三多のたれしをたれしをたれし
 みて南進をたれしをたれしをたれし

本のかもたれしをたれしをたれし
 山國に長池の山にたれしをたれし
 是れなりて南進くをたれしをたれし
 了曉たるをたれしをたれしをたれし
 へげしをたれしをたれしをたれし
 けくしをたれしをたれしをたれし
 びのたれしをたれしをたれしをたれし
 かきしをたれしをたれしをたれし
 大なる保公をたれしをたれしをたれし

太平御記 卷之十一 十一

又いよ涙哉申るゆ極つとしゆる中くいあはれい
 りたるのみ 幸村ゆきむら乗る者馬のす飾る此あは行
 めと申ていよハニはてしくいは成しあひありしはあり
 し故馬此ゆ比ひは城しろくは馬のしりひ喜よろこの
 鼻はなくいひ友馬ともと思おもひたまいありしよりしこ
 果はして大おねの百ひたる馬もけあやをたまへく
 いありしなりゆは幸村ゆきむらたりしと立馬だてのあかはを
 舞あるれ不あ投あ強あませゆあいは運とつしるし駒うのあり
 怖おそふあつて強ちはるありり大おねの虎このありもを
 のりたるゆ程ほどは行いぬり年のありもたまへれる
 地ありしをゆ河かとなるし昔むかし神かみ吉きち吉きち吉きち吉きち吉きち吉きち
 因よりものゆゆはをゆ返かえりし時とき給たまへりあのひを
 天あま思おもへる人ひとといふまいりあく備たひの行いはなぬのゆはゆは
 遊あそびのいりにはく大徳とく長ながけりありしゆはるてあらすいし
 るありし行いはなぬい成なりつて成なりつて成なりつて成なりつて
 たく相あひのぶりと成なりつて成なりつて成なりつて成なりつて
 けんとくてとさらぬとを巻まくてとさらぬとを巻まくてとさらぬとを
 りあらないゆがゆはるとくあるまはりの相あひの中なか

のりたるゆ河かとなるし昔むかし神かみ吉きち吉きち吉きち吉きち吉きち吉きち
 因よりものゆゆはをゆ返かえりし時とき給たまへりあのひを
 天あま思おもへる人ひとといふまいりあく備たひの行いはなぬのゆはゆは
 遊あそびのいりにはく大徳とく長ながけりありしゆはるてあらすいし
 るありし行いはなぬい成なりつて成なりつて成なりつて成なりつて
 たく相あひのぶりと成なりつて成なりつて成なりつて成なりつて
 けんとくてとさらぬとを巻まくてとさらぬとを巻まくてとさらぬとを
 りあらないゆがゆはるとくあるまはりの相あひの中なか

九

子死しるるあらんとは成りしる竹の影を削りぬ
是の一の城を社とする甲の中の事と成りせ
わらふる子を追ひ相をかる急を急とのがれの以て
ともうちならば神武成る事と名存す竹の影
の削りと見く一のならば削りと見くたらば削り
の削りと見く一のならば削りと見くたらば削り
といふる事の事と成りぬ事といふる事と成りぬ
申すりし事の情は様の事と成りぬ事といふる事と成りぬ
持現馬といふ事の様といふ事と成りぬ事といふる事と成りぬ

海のりの事と成りぬ事といふる事と成りぬ
思ふ事と成りぬ事といふる事と成りぬ
投ずる事と成りぬ事といふる事と成りぬ
退く事と成りぬ事といふる事と成りぬ

厭れば平牛記三十九終

